

問1 熊本県の阿蘇山周辺や、桜島を囲む鹿児島湾の地形的な特徴として、大規模な火山の噴火が起こった際、地下のマグマが噴き出したことで地表が陥没し、形成された大きな「くぼ地」のことを何と呼ぶか。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

1. カルデラ 2. シラス台地 3. 盆地 4. 扇状地

問2 福岡県の工業出荷額に占める産業別割合を示した統計において、機械工業に次いで大きな割合を占め、北九州工業地域の沿岸部に工場が集中している産業の名称を答えなさい。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 化学工業 2. 金属工業 3. 食料品工業 4. せんい工業

問3 日本の農業統計において、肉用牛の生産額シェアが全国の41%を超え、他の地方に比べて突出して高い割合を占めている地方はどこですか。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 九州地方 2. 東北地方 3. 北陸地方 4. 近畿地方

問4 宮崎県の農業統計において、ピーマンの月別入荷量が多い冬から春にかけて、市場全体の1キログラム当たりの平均価格が高くなっている傾向が見られます。このような農業経営の工夫に関する記述として正しいものを選びなさい。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 暖かい気候を活かして成長を早める促成栽培により、競争相手が少ない時期に出荷している。 2. 冷涼な気候を活かして成長を遅らせる抑制栽培により、夏場の需要に合わせて出荷している。 3. 大都市に近い立地を活かした近郊農業により、輸送コストを抑えて新鮮なうちに販売している。 4. 特定の作物のみを大量に生産する工芸作物の栽培により、生産コストを大幅に削減している。

問5 鹿児島県の農業産出額は約4435億円と非常に高く、そのうちの約2837億円が畜産によって生み出されています。このように畜産の割合が極めて高い背景にある、この地域の自然環境の説明として最も適切なものはどれですか。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

1. 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。 2. 年間を通して温暖で降水量が多く、二期作などの米づくりに適していたため。 3. 季節風の影響を強く受けるため、寒冷な気候に強い作物の栽培が優先されたため。 4. 平野が少なく山がちであるため、急斜面を利用した果樹栽培が中心となったため

問6 九州南部の鹿児島県などに広く分布する、過去の巨大噴火による火山灰などの噴出物が厚く積み重なって形成された台地を何と呼びますか。（2020年 広島公立入試 類似）

1. シラス台地 2. カルデラ 3. 扇状地 4. 三角州

問7 中国・四国地方と九州地方の産業統計を比較したとき、それぞれの地方の特色について正しく説明しているものはどれですか。なお、統計において中国・四国地方の工業出荷額は約36.7兆円、九州地方は約25.7兆円となっています。（2023年 青森県公立入試 類似）

1. 九州地方は中国・四国地方に比べて人口が多く、農業生産額も大きいですが、工業出荷額は中国・四国地方の方が大きい。 2. 中国・四国地方は九州地方に比べて人口が多く、農業生産額も工業出荷額も九州地方を上回っている。 3. 九州地方は中国・四国地方に比べて農業生産額は小さいが、工業出荷額と人口において中国・四国地方を大きく上回っている。 4. 中国・四国地方と九州地方を比較すると、人口、農業生産額、工業出荷額のすべての項目において九州地方が中国・四国地方を上回っている。

問8 鹿児島県の南、大隅諸島に属する南北に細長い形状をした島に関する説明として、歴史的な出来事と現代の状況を正しく組み合わせたものはどれですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着して鉄砲が伝来し、現在は国内最大級のロケット発射場である宇宙センターが設置されている。 2. 16世紀にキリスト教が初めて伝わった地であり、現在は世界自然遺産に登録された屋久杉の原生林を保護する活動が盛んに行われている。 3. 古くから朝鮮半島との貿易の中継地として栄え、現在は大陸からの渡り鳥を観測するための大規模な自然保護区となっている。 4. 琉球王国の支配下で独自の文化を育み、現在はサトウキビ栽培とマングローブ林を活用したエコツーリズムの拠点となっている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 カルデラ	火山の噴火によってマグマが放出され、空洞になった地下に地表が落ち込むことで形成される大きなぼ地をカルデラと呼びます。阿蘇山はこのカルデラの中に人々が生活する集落や鉄道があるほど巨大な規模を持っており、鹿児島湾も北部の「始良カルデラ」などに海水が入り込んで形成されたものです。シラス台地は火山灰が堆積してできた平坦地であり、形成の仕組みが異なります。
問2	答え 1 化学工業	北九州工業地域は、鉄鋼業（金属工業）から発展した歴史がありますが、現在は機械工業や化学工業が工業出荷額の中で重要な役割を担っています。特に化学工業は、広大な敷地と港湾施設を必要とするため、地図上の工場分布を確認すると、内陸部よりも沿岸部に記号が集中していることがわかります。これは原料の輸入と製品の輸出を効率化するための典型的な臨海型工業の特徴です。
問3	答え 1 九州地方	九州地方は温暖な気候と広大な土地を活かした畜産業が盛んです。特に鹿児島県や宮崎県などの南九州では、肉用牛のほか、豚や鶏（ブロイラー）の飼育頭数・生産額でも全国トップクラスのシェアを誇っています。
問4	答え 1 暖かい気候を活かして成長を早める促成栽培により、競争相手が少ない時期に出荷している。	宮崎平野などで見られるピーマンの生産は、黒潮の影響を受けた温暖な気候を利用した促成栽培の典型例です。市場における価格の変動（入荷量が少ないと価格が上がる）という仕組みを利用し、ビニールハウス等で時期を早めて生産することで、経済的な優位性を確保しています。これに対し、夏でも涼しい高冷地などで時期を遅らせる栽培方法は抑制栽培と呼ばれ、長野県のレタスなどが有名です。
問5	答え 1 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県（特に大隅半島や薩摩半島）には、桜島などの火山活動による堆積物でできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水が染み込みやすく、大規模な水田を作るのが難しかったことから、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして広大な土地を活かした肉用牛や豚の飼育といった畜産業が盛んになりました。この歴史的な土地利用の背景が、現代の高い畜産産出額につながっています。
問6	答え 1 シラス台地	九州南部には、火山の噴出物が堆積してできた広大な台地が広がっています。この地形は水分を保持しにくく水はけが非常に良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。その一方で、現代ではその広大な面積を活かした大規模な畑作や畜産業の基盤となっています。
問7	答え 1 九州地方は中国・四国地方に比べて人口が多く、農業生産額も大きいですが、工業出荷額は中国・四国地方の方が大きい。	九州地方は人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円であり、人口約1108万人、農業生産額約0.9兆円の中国・四国地方を上回っています。一方で、工業出荷額に関しては、瀬戸内工業地域などの大規模な重化学工業が発達している中国・四国地方が約36.7兆円となっており、九州地方の約25.7兆円を上回る規模を持っています。地方ごとの産業構造の違いを、人口規模や生産額の具体的な数値から判断することが重要です。
問8	答え 1 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着して鉄砲が伝来し、現在は国内最大級のロケット発射場である宇宙センターが設置されている。	種子島は、歴史的には戦国時代の1543年に鉄砲が伝来した場所として有名であり、当時の日本における戦術や社会構造に大きな変化を与えました。現代では、赤道に近く地球の自転を利用しやすいことや、島の東側が広い海に面しており安全が確保しやすいといった地理的条件から、日本を代表するロケット発射施設である宇宙センターが建設され、宇宙開発の拠点となっています。